

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4072600713
法人名	有限会社ラビット
事業所名	グループホーム つるとかめ
所在地	福岡県
自己評価作成日	平成29年10月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 福祉評価センター		
所在地	福岡県北九州市戸畑区境川一丁目7番6号		
訪問調査日	平成29年11月8日	評価結果確定日	平成30年2月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

通常の人員配置の他に、看護師、計画作成担当者が勤務する体制をとっており、利用者さん一人一人の状態に合わせた援助を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

静かな田園風景が広がる住宅街にあり、敷地も広く豊かな生活環境の中にある。2階建ての2ユニットの事業所内も、各居室がゆとりある広さがあり、動線や配置に配慮し、鏡台や筆筒等の家具が持ち込まれている。全家族に開催を案内する運営推進会議には、複数の家族や地域代表、民生委員、市担当者、地域包括支援センター職員等の出席を得ており、事業所の実状を共有されている。各ユニットで手作りされる食事はメニューも異なり、嗜好や食材、形状等に配慮され、利用者の方々の楽しみとなっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)		1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己 外部	項 目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「住み慣れた地域でいつまでもいきいきと暮らし自分のリズムに合わせたその人らしい普通の暮らし」の理念に基づき、地域とのつながりを大切にしている。	事業所内に理念を掲示している。月一回のスタッフ会議の際に理念の共有に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の区長と交流があり、行事や活動の情報を得て文化祭等に参加している。	自治会に所属している。地域の作品展や市長も参加する慰霊祭にも参加している。随時行事等の情報交換に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の方の認知症の相談や介護保険制度の説明など行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、市職員、高齢者支援センター職員、地域区長、家族、利用者の参加があり、要望や助言を伺い、サービス向上に活かしている。	全家族に開催を案内する運営推進会議には、利用者、複数の家族、前区長、民生委員、市職員、地域包括支援センター職員等の出席を得ている。会議では外出レクや入居状況、職員の状況等の報告がなされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市職員から助言を受け、市が企画する、研修会や行事に参加しサービスの向上に活かしている。	運営推進会議には、市担当者及び地域包括支援センター職員の出席を得ており、事業所の実状を共有している。運営に関する制度上の事、介護保険外の持ち出しのサービス等について問い合わせを行っている。また空き状況の情報共有をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを確認し、各職員が理解し、拘束を行わない援助を実践している。	スタッフが外部研修に参加している。管理者はスタッフに対して虐待に関するアンケートを実施している。玄関は施錠されている。	居室において壁付けのベッドにベッド柵を手前2柵している事例が数例見受けられます。アセスメントとともに状況を精査し、必要性を再検討した上で適宜、説明と同意を取るなどの必要な手続きを行うことが必要です。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待や拘束について、検討会を開き、各職員、理解できている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護 成年後見制度のマニュアルを配布して、職員の理解を促している。	現在、権利擁護に関する制度を利用している方もおり、改めて制度の必要性が生じた場合は管理者より、地域包括支援センターや主治医と相談しながら制度を利用できるサポートがなされている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居相談があった時点から、細かく説明し、納得して契約、入居していただいている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に家族及び利用者さんに参加してもらい、意見や要望を言ってもらっている。家族の面会の時にも意見や要望を伺っている。	入居費用の支払い時や面会時にコミュニケーションを図り、意向を反映しようとしている。平素より入居の様子について家族宛に報告書を発行している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が話しやすい人間関係を築いている。良い意見は積極的に取り入れている。	管理者は平素より心がけてスタッフに声をかけて意向を確認している。月に1回のスタッフ会議や状況に応じて随時のミーティングにおいて業務の改善なども協議される。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の能力は把握している。勤務状況や勤務姿勢を考慮し賃金に反映している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	年齢や性別を理由に採用対象から排除していない。	定年65歳であるが再雇用制度もあり、現在20代から60代までの幅広い年齢層の職員が勤務している。職員確保にはやや苦労されており、夜勤専門スタッフを置くなどの工夫がなされている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権に対するマニュアルを配布し理解するようにしている。また 人権研修に積極的に参加している。	職員が障害者差別解消法や高齢者虐待防止等に関する外部研修に参加している。また、マニュアルを配布し、人権教育、啓発に努めている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実 際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会 の確保や、働きながらトレーニングしていくことを 進めている	参加できる研修には参加するようにしている。 参加した後はレポートを作成し他の職員 にも伝達できるようにしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機 会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問 等の活動を通じて、サービスの質を向上させてい く取り組みをしている	連絡協議会に参加し他事業所とも交流を 図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っているこ と、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の 安心を確保するための関係づくりに努めている	コミュニケーションをしっかりと、本人の状 態やニーズを把握するように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っている こと、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係 づくりに努めている	しっかり話を聞き、対応している。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「そ の時」まず必要としている支援を見極め、他の サービス利用も含めた対応に努めている	家族からの相談、本人の面談をしっかり行 い対応している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、 暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者さんの状態をしっかり見極め、本人 が行える、日常生活の作業など手伝っても らっている。役割をもって生活していると思 っています。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、 本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支 えていく関係を築いている	家族からの意見や要望もととりいれ、支援し ている。		
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場 所との関係が途切れないよう、支援に努めている	かかりつけ医の継続受診の支援、外出レク などでなじみの場所に出かけたりしている。	かかりつけ医の継続受診や以前通っていた 店までドライブする等の支援を行っている。ま た、家族との連携を図り、自宅で過ごしたり、 外出や外泊、入院中の家族を見舞う等の支 援が行われている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中はリビングで過ごしてもらい、交流が図れるように支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院、退所された家族からの相談にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意向に添えるよう努力しています。	入居時のインテークや日常の関わりの中で、会話や行動等から、思いや意向の把握に努めている。身体や精神の状態の変化があれば、随時家族の意向を確認している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントをしっかり行い、今までの生活歴を把握するようにしている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察、記録をしっかり行い状態を把握出来る様に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	関係者の意見を参考にし介護計画に反映し、作成している。	更新時には、家族の意向確認や、数回に分けて作成担当者とスタッフとで小ミーティングにて意見を出し合っている。	本人本位の視点確保や身体拘束が行われている現状を踏まえ、アセスメントの充実が期待されます。
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	状態変化やニーズの変化があればその都度見直している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者さん一人ひとりの能力やニーズに対応し支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の文化センターなどが企画する作品展などに出展し、交流を図り、楽しく生活が出来るよう支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医の受診を希望される方は、定期的に受診介助し主治医に施設での状況、バイタルなどを報告し治療に協力している。	かかりつけ医への受診や協力医療機関による定期的な訪問診療が実施されている。看護師が週に3回(6時間)勤務しており、看護記録が整備されている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員はいつでも、看護師に相談や指示を仰げる体制をとっている。看護師も利用者さんの状態をはあくしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	各医療機関の相談員やソーシャルワーカーさんとは、友好的な関係を築けていると思っています。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の指針を家族に説明し同意をいただいている。	重度化した場合や終末期のあり方について、指針をもとに事業所としての方針を説明し、意向を確認している。状況の変化に伴い、家族にアンケートを実施するなどして意向を再確認している。	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを配布し、ミーティングを行い緊急時の対応はしっかり出来ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災訓練は定期的に行っている。他の災害については、運営推進会議やミーティングで検討し、区長や行政の指示を仰いでいる。	消防設備会社立会いのもと、年2回、消防暑より水消火器を借り、夜間想定も含む避難訓練を実施している。運営推進会議では、地域の水害について検討されたり、地域との連携について話し合いが行われている。台風前には浴槽に水をはるなどの準備をしている。水害時には、2階に避難するように想定している。	地域との連携強化や備蓄品の準備や緊急連絡網の確認等、更なる災害対策への取り組みが期待されます。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者さんの性格や状態を考えて対応している。	管理者は、スタッフが不適切な声かけや対応があった場合はその都度アドバイスをしている。常に呼称や声かけについて適切さを考えながらケアにあたっている。居室ドアの開閉や起床・食事時間等、個別の体調や生活リズムに配慮している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態やニーズを把握出来る様に、しっかり観察して対応している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のリズムに合わせた生活が送れるよう支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望に沿うようにしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者さんの能力に合わせ、手伝ってもらっている。下膳の出来る方は、無理のないように行ってもらっている。利用者さんが重度化してきており、出来る方が限られてきている。	職員が買い物に出かけ、3食手作りしている。ユニットごとにメニューも異なり、食材や嗜好、形状等に配慮されている。弁当持参で公園に出かけたり、時には誕生日のケーキを手作りすることもある。	
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量は記録に残し、不足にならないように支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後 全員 行っている。必要な方はマウスウォッシュを使用し口腔ケアに務めている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を付け、排泄状況を把握し定期的にトイレ誘導を行っている。日中帯はほぼ全員トイレでの排泄を試みている。	排泄チェック表にて個々の排泄の状況を把握できるように努めている。排泄ケアに関する外部研修に参加し、内部での伝達が図られている。日中はおむつを使用している方も出来る限りトイレでの排泄を支援し、必要時には職員2名での介助が行われている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表をつけ、排便状況を確認している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の時間 曜日は決まっているも利用者の状況や希望により変更は可能です。	基本的な1日おきの入浴スケジュールは設定しているが、毎日入浴を準備しており、希望や体調、状況等に応じて、シャワー浴も含む柔軟な対応に努めている。必要な方には、職員2名での対応を行っている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中帯は活動を支援し、夜間しっかり眠れるように支援している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能書きはいつでも確認できる場所にあり、理解できている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ニーズを把握し望む生活を送れるように努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に一度は外出レクを企画し季節を感じてもらったり、利用者さんが楽しんでいただける企画を考えている。天気の良い日は中庭や近隣を散歩している。	月々ユニットごとに担当職員が外出を企画し・実施している。平素からも近所や庭を散歩している。家族との連携を図りながら、外食や外泊に出かける機会がある。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は家族に任せている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者さん自ら電話をかける事はない。希望があれば、職員が電話をかけ変わる事はある。毎月の請求書と一緒に利用者さんの書いた手紙を送る事はある。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外部からの騒音はほとんどない。温度はエアコンで、光はブラインドを調整し快適に過ごせる様にしている。	リビングは大きな窓があり、陽がよく入り明るい。その窓からは中庭も見えて開放感がある。廊下には、めだかを飼育しており、癒しもある。外出時の写真も各所にたくさん展示があり、落ち着ける空間がある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの配置を工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた馴染みの家具を持ってきて使ってもらっている。	移動の動線や配置に配慮しながら、馴染みの家具(鏡台・筆筒等)を持ち込んでもらい、自分なりの居室になるように支援されている。居室入り口は、自分の部屋が認識しやすいような工夫がなされている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者さんの状態に合わせ支援している。		